

賛助会員功労賞

日本色彩学会賛助会員功労賞を受賞して

On receiving the Award from the Color Science Association of Japan

鈴木 健一
Kenichi Suzuki株式会社村上色彩技術研究所 代表取締役社長
President, MURAKAMI COLOR RESEARCH LABORATORY

この度は、日本色彩学会賛助会員功労賞という、大変光栄なる賞をいただきまして、誠に有り難うございます。

また、日頃よりお世話になっております皆様にも心より感謝申し上げます。

日本色彩学会と弊社の関わりは、学会の前身である色彩科学協会の役員に弊社創業者である村上静男が名を連ねていたことや、弊社技術顧問であった馬場護郎の研究発表活動ならびに研究会活動などからも、とても深い繋がりを感じております。今は亡き兩名をはじめとする先輩方の志を継ぎつつ、今後も日本色彩学会と色彩学の発展に微力ながらもお役に立てたらと思います。

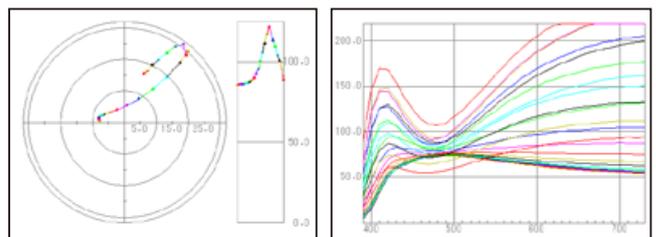
さて、弊社が日本色彩学会の賛助会員になってから52年が経つとのこと。私が入社したのが40年と少し前のことであり、今となっては52年前のことを知る者が残念ながら社内にはおりません。色彩学に限らず何事も、その始まりや変遷を知ることはとても重要であり、もっと馬場からたくさん話を聞いて学ばなければいけなかったと反省する次第です。

私が入社して少し経ってからパソコンが普及し始め、弊社がパソコン制御による分光色彩計を開発したのもその頃であり、当時の業界の測色技術と測色計の進歩はかなり急激だったと思われまます。そして、誰でも簡単に数秒で色を測定できるようになって40年ほど経ちますが、色を測るとか色を数字で示すということは通常の学校教育で教わることは無く、一般的に知られていません。「取引先と色の測定値が合わないんですけど・・・」とのお問合せに対し、調べてみると両者の用いた光学条件が一致していなかったり、表色計算に用いるイルミナントと視野角の設定が一致していなかっただけということが、現在でも珍しくありません。

そんな中、今回の全国大会（福岡）における新しい取り組みである、より若い世代にも色彩学に触れても

らおうという試み（高校生等の参加）は、とても有り難く、嬉しいものでした。若い皆様が色彩学を活かす道に進まれて（もちろんベテランの皆様も）、色や光沢や物の見えを測定する必要を感じられました際には、弊社にお声かけいただけましたら幸いです。

今後も、日本色彩学会の皆様とのご縁を大切に、日本色彩学会と色彩学の益々のご発展ならびにそれに携わる皆様のご健勝とご活躍を祈念しながら、社会のお役に立てる会社であり続けたいと思っておりますので、ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。



変角分光測色システム GCMS-4B 型 による
ホワイトパール塗板の変角測色例